

令和元年度老人保健健康増進等事業

北海道の「地域医療構想」と地域包括ケアの連携を実現する
「住民主体のまちづくり」促進に向けた調査研究

一般社団法人北海道総合研究調査会

1 目的

今後、人口構造の変化等に伴い、自治体においては、患者ニーズに応じた病院・病床機能の役割分担や、医療機関の相互連携、及び医療と介護の連携強化を通じて、より効果的・効率的な医療・介護サービス提供体制の構築がもためられている。

平成30年度の調査研究において、複数の事例調査から、「地域医療構想」と「地域包括ケア」の連携を実現するためには、両者を「まちづくり」と連動させることが重要であること、そのプロセスは相互に関連しながらも、大きく2つの段階（「①地域の医療提供体制の方向性を定める段階（フェーズ1）」、「②住民参加により、まちづくりとの連動に取り組む段階（フェーズ2）」）に整理できることが分かった。

本調査研究では、医療提供体制に課題を抱えている自治体を調査対象に加え、1)「フェーズ1」からのプロセスについて、手順や方法等のあり方を検討するとともに、2)「フェーズ2」のモデル自治体については平成30年度から継続して住民参加による議論を行い、「住民主体のまちづくり」推進に向けた取組プロセスを可視化する。

2 調査概要

- (1) 道内自治体アンケート調査
- (2) 道内のモデル自治体調査
- (3) 道内モデル自治体におけるまちづくりのプロセスの試行
- (4) 研究会の設置・検討

3 本調査研究の結果と考察

本年度の調査研究では、中頓別町をフェーズ1の試行モデルとして、病院の機能転換とその後の「新たな医療・介護・福祉体制」の構築に向けた「将来の姿」を検討するプロセスと方法を可視化した。また、更別村をフェーズ2の試行モデルとして、ワークショップを開催し、まちづくりの方向性を検討する仮想の場として試行した。

中頓別町のフェーズ1の試行を通じて、「将来の姿」の具現化に向けて、さらに①診療所化した医療機関としての機能の充実に向けた検討、②人材の確保と定着方策、③まちづくりとの連動にあたっての事業推進方策の検討（フェーズ2）、が必要であることがあらためて確認できた。また、更別村におけるフェーズ2の試行から、住民の主体的な健康づくりの活動が医療・福祉の維持につながることを住民自らが学び、実践するプロセスが持続的な地域包括ケアシステムにとって重要であることを確認した。

4 今後に向けて

ダウンサイジングに加え、何をどのように強化するか（バージョンアップ）について検討する必要がある。中頓別町のフェーズ2においては、住民との意見交換会を開催など、住民参加型のまちづくりと連動するプロセスを試行することが考えられる。

医療機能の見直しの引き金になりうる医療従事者の人材確保や定着についての事例を調査し、モデル地域における取組指針のテーマに据えることも必要である。

地域特性が異なる自治体への横展開を可能にするため、新たな自治体をモデルに加え、フェーズ1、フェーズ2のバリエーションを増やすことが必要である。